

○「京都市公共事業コスト構造改善プログラム」について

## 1 「京都市公共事業コスト構造改善プログラム」策定の目的

依然として厳しい財政事情の下、限られた財源を有効に活用し、効率的な公共事業の執行を通じて社会資本の整備・維持を着実に進めていくためには、コストと品質の両面を重視する取組を行う必要があります。そこで、これまで実施してきたコスト縮減施策の定着を図るとともに、「国土交通省公共事業コスト構造改善プログラム」等との整合を図りつつ、市民の安心・安全の確保や地球温暖化等の環境問題への対応を踏まえ、京都市の公共事業において総合的なコスト構造改善に取り組む「京都市公共事業コスト構造改善プログラム」を策定しました。

## 2 プログラムの主な特徴

- ・ コストと品質の観点から公共事業を抜本的に改善し、良質な社会資本を効率的に整備・維持することを目指す。
- ・ 国のプログラムにはない『環境先進都市・京都』の実現」を取組分野の一つとして設定し、さらなる環境対策に努める。
- ・ 平成20年度から5年間で、平成19年度と比較して、15%の総合コスト改善率の達成を数値目標として掲げる。

### 3 プログラムの取組分野及び施策

プログラムは、以下の表のとおり、5分野、37施策で構成しています。

取組分野	施策
I. 事業のスピードアップ	構想段階からの合意形成手続きの積極的導入など6施策
II. 計画・設計・施工の最適化	新技術活用システムを通じた民間技術の積極的活用など8施策
III. 維持管理の最適化	公共施設の点検結果等にかかるデータベースの整備など6施策
IV. 調達最適化	総合評価方式の促進など12施策
V. 「環境先進都市・京都」の実現	低炭素社会の実現に向けた取組の推進など5施策

## 総合コスト改善率等

※ 20年度実績

### (1) 総合コスト改善率等

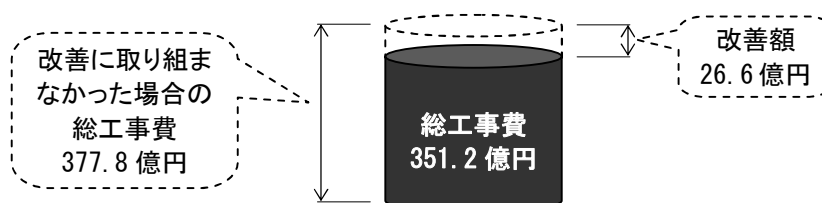
工事件数	総工事費（億円）	コスト構造改善に 取り組んだ工事件数	改善額（億円） ※ 1	総合コスト改善率 ※ 2
473	351.2	343	26.6	7.0%

※ 1 上記の改善額は、平成 19 年度における標準的な工法や材料を使用した場合の総工事費と、平成 20 年度の総工事費との差額を算出しています。

※ 2 総合コスト改善率＝（工事コスト構造の改善額＋工事コスト以外の効果のコスト換算額）  
／（総工事費＋工事コスト構造の改善額）

工事コスト以外の効果のコスト換算額は、現在のところ貨幣換算を行う手法が確立できていないが、手法が確立できれば、順次、改善率の算定に反映させていきます。

### 改善額のイメージ

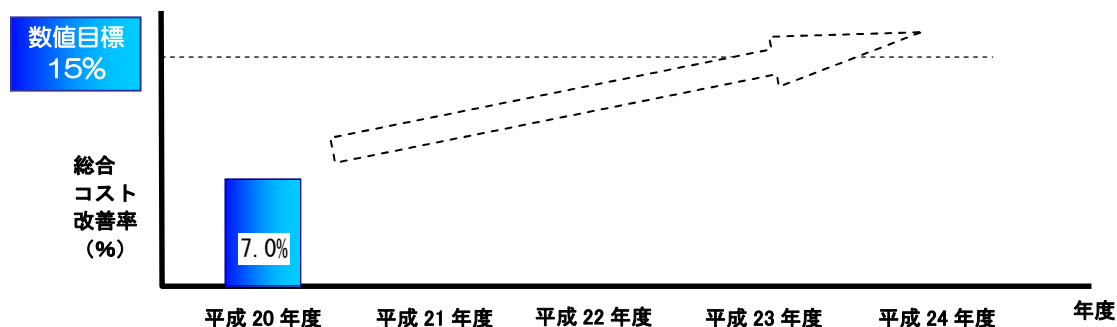


### (2) コスト構造改善に取り組んだ工事件数（分野ごとの集計）

分野Ⅰ 事業のスピードアップ	分野Ⅱ 計画・設計・施工の最適化	分野Ⅲ 維持管理の最適化	分野Ⅳ 調達の最適化	分野Ⅴ 「環境先進都市・京都」の実現
24	165	36	81	215

※ 複数の取組を行っている工事があります。

### < 総合コスト改善率の年度別実績 >



※ 平成 24 年度までに、平成 19 年度と比較して、単年度で 15% の総合コスト改善率の達成を数値目標としています。

### ○市営住宅建設戸数の推移

### ■市営住宅建設戸数

